

チャレンジ！！オープンガバナンス 2019 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	14_1/1_1	やっぱり草津がいい！ふるさとへの愛着をもつ子どもと多様なコミュニティが元気に育つまちづくり	滋賀県草津市
アイデア名(注2) (公開)	「まめバスすごろく」で疑似体験！地域の宝を発掘、活用、未来につなぐ		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2019 サイトの中に記載してあるエントリー自治体(連合)が掲げる地域課題を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームが応募されるアイデアにつけるものです。アイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名(公開)	草津おみやげラボ情報部	
チーム属性(公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input checked="" type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム	
メンバー数(公開)	11名	
代表者情報	大塚佐緒里	
メンバー情報	氏名(公開)	角谷貴美子 中西まり子 松田游也 清原真結 山岡正明 坂居雅史 中瀬明美

(注意書き) ※ **必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2019_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2019 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2019@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「3. 自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。

7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2 ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

「平成 30 年度草津市のまちづくりについての市民意識調査結果報告書」では、「基礎的コミュニティの活性化」および「市民公益活動の促進」については、市民の関心も市民の市政への満足度も低いこと、また、「まちに誇れるものがある」「市民役のまちづくりが進んでいる」と思う人が少ないことが明らかになっている。そこで、市民のふるさとへの愛着をはぐむため、景観・交通・都市計画など行政が抱えるまちづくりに関する課題に対して、子どもも大人も、地域のまちづくりに積極的な人もそうでない人も、誰もが参加しやすいように、大学や公共施設等、地域の資源を活用して“草津でこそこできる”オリジナリティーのある要素を織り交ぜたまちづくりの仕掛けをつくりたい。

<解決アイデアの内容>

【仮説】

市民意識調査では、「まちに誇れるものがある」と思わない草津市民が約 80%、草津へ転入してきた人は 74.5%と示され、現状、草津に移り住んだ人が『草津のいいところつながるきっかけ』が少ないのではないかと。次に、草津市コミュニティバスのまめバスについて、改善により魅力を高められるとインタビュー結果がある。

そこで、すべての人に分かりやすく参加できる「すごろくゲーム」を「まめバス」の路線図をベースにした「まめバスすごろく」をアイデアとして用い、「まめバスすごろく」を制作し、遊び、実際に訪れる体験を通して、地域のすべての人がつながる機会を作ることで、『草津への愛着』と『市民が主体的にまちの課題を持続的に解決する力を育む社会的サービス』が生み出されるのではないかと。

【アイデア】

「まめバスすごろく」で疑似体験！地域の宝を発掘、活用、未来につなぐ

【内容】

私たち「草津おみやげラボ」は、子育て世代・学生・外国人が密接に関わるコミュニティで、「おみやげ」をテーマに様々な人々の出会いを生み出し、交流することで、草津市の食・歴史に触れたりする場所を提供する取り組みを 4 年前から続けている。この交流活動を通して、草津市には誇れる地域資源や、すでに誇れる地域資源を活用した市民の取り組みが他にも既に存在しているが、市民や地域社会にあまり知られていないことが分かった。

そのため、誇れる地域資源を知ってもらおう仕掛け、また個々で行われている市民の取り組みをつなげるための「仕掛け」を市民主体で行えるよう、次のように考えた。

仕掛け①『当たり前』になっていて気づかないような地域の宝・課題を発掘

草津おみやげラボとその仲間が、まめバス路線図をベースとして制作した「まめバスすごろく」シート（マスのみ）を元に、コミュニティの集まり（地元住民、子育て世代、シニア、外国人など既存の集まり）にとっては『当たり前』になっていて気づかないような A.「草津市のいいところ、誇れるところ【地域の宝】」、B.「地域の小さな困りごと、その解決策【地域の課題】（例：歩道の段差、ゴミが落ちている、外国人に分からない表示）」の内容出しワークショップを行う。

仕掛け②地域の宝・課題カードをすごろくゲームの遊びを通して活用する

バス路線、通学路などがマスのコースに設定されている。地域の宝・課題の内容をカード化して、マスに対応させる。

<すごろくゲームのカたち>

- ・マップではなく「**ボードゲーム（すごろく+カード）**」の形に集約する
- ・ゲームの中で、各地に点在する地域資源を「回遊する」疑似体験をすることができる
- ・子どもも大人も、「**遊び感覚**」で自分の地域を再発見できるとともに、「**実際に行ってみよう**」という興味を刺激
- ・子どもや外国にルーツをもつ人でも分かるように、絵や写真も用いたやさしいにほんごでゲームをつくる。

<すごろくゲームの内容>

すごろくゲームには、公共施設、観光スポットだけでなく、地域で人知れず行われている市民の活動を盛り込む

- ・野菜の路上販売や無人販売、学区単位や町内会単位で定期的開催されるマーケットなど
(野菜など、そのままでは普及が難しいものはレシピ紹介も行う)
- ・既にある市民活動をコンテンツとして、地域のまちづくりに参加する機会がこれまでなかった人も簡単に参加できる
- ・避難所、AED 設置場所、公衆電話など“もしものとき”に役立つ情報 [防災に対する啓蒙活動]
- ・景観や環境を守るための、知識など、これまでの経験を子ども達に分かりやすく伝える (シニアから若者へ)
- ・大学の自主ゼミなどの地域活動を、マッチング&継続させる (若者から地域へ。世代交代で廃れさせない)
- ・企業情報 (アルバイト、就職などの紹介や広告) 掲載から、協力金 (サービス、活動費などの協力) を募る。

※基本的に、新たなツールを作るというアイデアではなく、既存のコミュニティを「つなげる・マッチングする」というアイデア

仕掛け③実際に訪れたい特典をつける

「ボードゲームでの疑似体験」から「実際に行ってみよう」、という行動につなげるためには、もうひと工夫必要

- ・実際にボードゲーム上の食べ物を買ったり歴史スポットに行ったり、市民活動に参加したりした人は、

LINE で簡単に抽選に参加することができ、当選者には草津ブランドが詰まった「**草津おみやげセット**」がもらえる
既存の健幸アプリ「**ピワテク**」のポイント付加、まめバス乗車割引サービス、店舗でのサービス、ピワイチなどとコラボ
などの人々が地域を周遊したくなる、住み（続け）たくなるような社会的サービスを設けることが必要と考える。

仕掛け④未来へつなぐツール

「まめバスすごろく」は、誰でも気軽に知ることができる紙媒体の普及を目的とし、行政、学校、店舗などで広く入手できるようにする。カードに QR コードを付けることで紙媒体では掲載できなかった詳細や、最新情報を Web サイトでリンクさせる。将来的には学生や協力企業を交えてゲーム自体をオンラインゲーム化とするなど、地域の人だけでなく、日本全国・世界中の人々が草津を体験できるように仕掛けを作り、新しい未来につなぐツールとする。

【効果】（ヒト） 1. 地域の宝カードから新たな気づきを得て、地域の愛着と自主性が生まれる。

2. 地域の課題カードから、誰が解決すべきかを気づききっかけとなる。

※公共物→市[例:歩道の段差、表示など]、地域性→住民[例:ゴミが落ちている→掃除の分担] など

3. ゲームのプレイヤーやリアルな出会いから、お互いのスキルをマッチングして課題解決が導かれる可能性を持つ。

4. 自分の思いを知り、自分と社会をつなげ、社会での役割と生きがい・居場所を自ら作る大切さを得る。

（モノ） 5. 草津のいいものを、ゲームを通して発掘し、実際に購入して活用する。新たな顧客を得ることで、新しい価値をつくるきっかけとなり、ずっと愛される草津ブランド化、経済活性につながる。

6. 子ども達、大学生に地元企業や草津ブランドの魅力を感じさせ、就職（定住・移住）につなげる。

（マチ） 7. 住民主体の活動、安心できる「まめバス」の運行、適切な社会的サービスが増えることで、行政の負担（ヒト・カネ）が少なくなり、ムダのない業務に取り組める。

地域の宝を発掘、活用、未来につなぐことで、心・身体・経済 三方よしの健幸で持続可能な社会を叶える社会的サービスを生み出し、ふるさとへの愛着をもつ子供と多様なコミュニティが元気に育つまちをつくる。

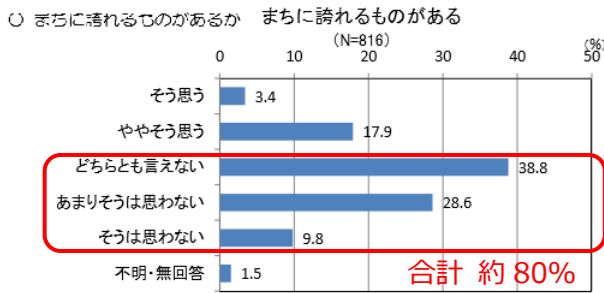
【課題】・まめバスすごろくの制作の費用と人材確保 ・「草津おみやげセット」、社会的サービス提供の協力企業

(2) アイデアの理由 (公開)

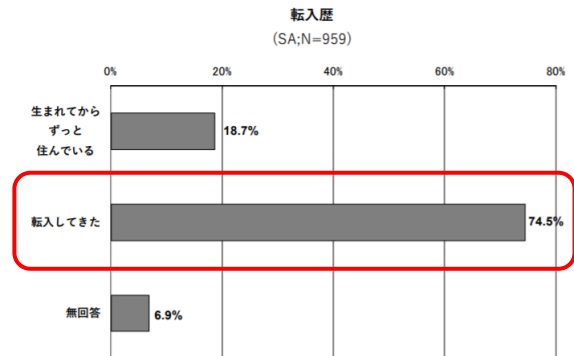
このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

①「ふるさとへの愛着を育むための仕掛けが必要」と考えた根拠

◆草津市人工ビジョン まち・ひと・じごと創生総合戦略 ◆草津市のまちづくりについての市民意識調査結果報告
 <資料編> H28年3月



資料:平成26年度 草津市のまちづくりについての市民意識調査結果報告書



②アイデアにまめバスを活用しようとした理由

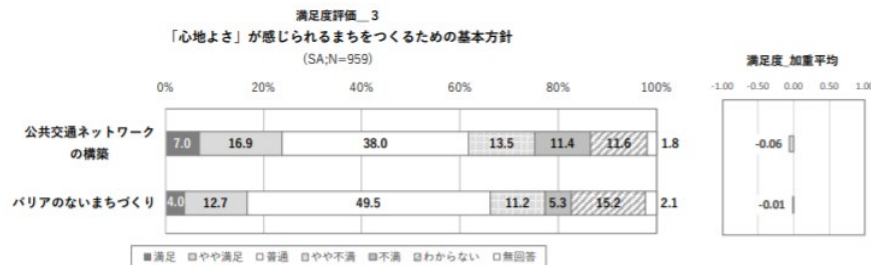
◆市民調査に基づく「住みやすさ」に関する調査研究報告書 2018年3月草津未来研究所

表 2-1 愛着を持てるどころ(インタビューから)

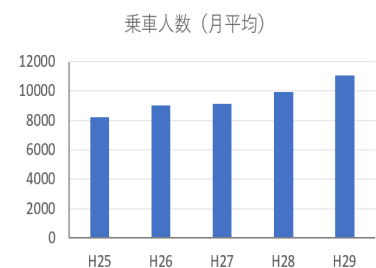
施設等	町並み・風景	食べ物等	イベント	改善により魅力が高められること
【多い】de愛ひろば	【多い】びわ湖風景	あおばな	宿場まつり	まめバス(年間バス発行など)
水生植物公園みずの森(連)	史跡草津宿本陣	草津メロン	イナズマロックフェス	治安
市城の寺社仏閣	桜(天井川)	愛彩菜	街・華・人あかり	自然・文化・歴史を残す努力
矢橋舟帆島公園	歴史・文化を感じる施設	はこずし	地域の神輿	健康相談(老後)
天井川(旧草津川)	自然(緑)	米(江州米・滋賀旭)	びわ湖花火(船帆島から)	歴史と文化を大事に
琵琶湖博物館(ナマス)	太田道灌	万願寺唐辛子		地産地消⇒地元へは安く提供
三大神社(藤)	宿場町	ほんもろこ		人との触れ合い(場所含む)
伊佐々神社(まつり)	草津川トンネル	淡水真珠		子どもの多い街
ロクハ公園	散歩・サイクリングコース	アスパラ		老人施設
グリーンスタジアム	田園と都会			旧草津川のゴミ(市民意識)
市民体育館	常夜灯(旧草津川)			高齢⇒病院 若者⇒子育て教育
三ツ池運動公園(サッカー)				ぼかぼかタウン(アプリ)
立命館大学				行政情報の広報の仕方
M10				

出所:草津未来研究所作成

◆草津市のまちづくりについての市民意識調査結果報告 (抜粋)



◆草津市 まめバス乗車状況



⇒【担当課の見解】

路線とダイヤを定着させた
 安心感から利用者が増加した。

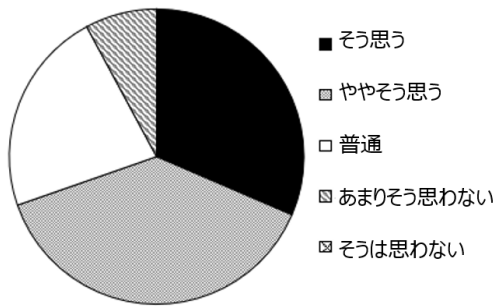
◆下笠地区まちづくりに関するワークショップ

『移動手段にこんなものがあればいいな』のアンケートに対して、

- ・まめバス、バス(世代を問わず多数)
- ・コミュニティバス(70代男) ・バスの回数を増やして欲しい(70代女)

③マップではなく、コミュニティバス「まめバス」をテーマとしたすごろくゲームでの疑似体験をアイデアとした理由

◆草津おみやげラボアンケート『まめバスすごろくに参加したいですか』



・小さなバスに乗ってどこに連れて行ってくれるのかという想像が膨らんだ。

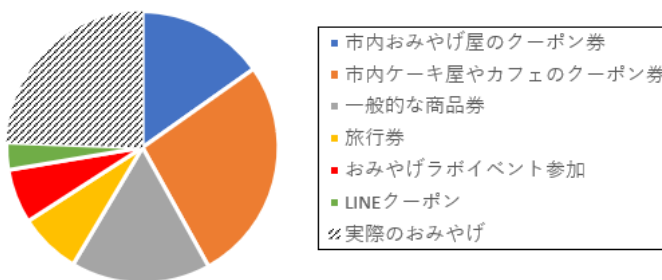


◆ワークショップ&体験会参加者コメント

- ・家に帰ってから、自宅周辺のすごろくゲームを1人で作成した(小1)
- ・草津川跡地公園 ai 彩ひろばにバスで行けることを知った(30代)
- ・小学生の娘と初めて自宅から草津駅までバスで行った(40代)

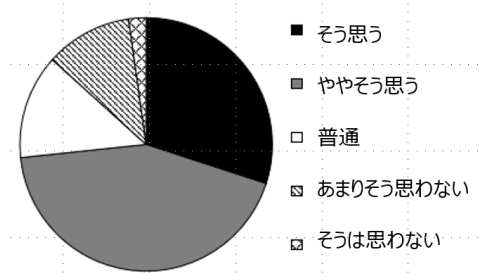
④LINEでの抽選により参加者に特典をつける理由

◆草津おみやげラボアンケート『ゲームや訪問で欲しい特典』



(属性は③のアンケートと同じ。N=96)

『LINEを用いた抽選に参加したいですか』



⇒左図は少ないが、LINEを用いた特典に興味はある人は多い(右)ので、今後市場を掘りこせる可能性が高い。

⑤人々が地域を周遊したくなる、住み(続け)たくなる仕掛けを作る理由

◆草津市人口ビジョン H28年3月

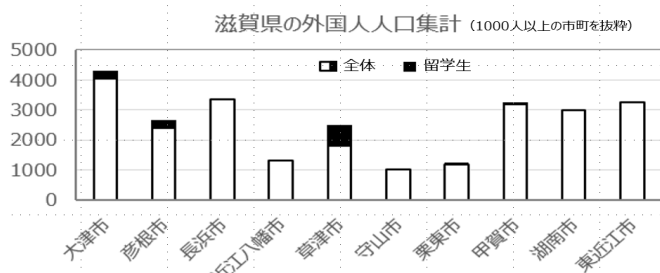
図表3-1 草津市の流入・流出(通勤・通学、平成22年10月1日、国勢調査)



⇒【根拠】市外から草津市に通勤・通学のため45,437人が訪れている。

【提案理由】市外から毎日訪れる人に地域の宝を知ってもらい、感じてもらう、そして人に伝えたいと思ってもらい、通勤・通学から、移住(大学生は定住)につなげたいと考えたから。

◆滋賀県オープンデータ H30年12月 滋賀県商工観光労働部観光交流局調べ



⇒【根拠】草津市は外国人の中で特に留学生が多い(676人)。

【提案理由】留学生は帰国後も大学との関係が続くことから、自身や家族を連れた再訪問によるインバウンドにつながる可能性が高いと考えたから。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

【Step 1 「まめバスすごろく」シート（マスのみ）の制作】

実現主体（ヒト） 草津おみやげラボとその仲間

必要な資源 まめバス路線図、地図、ペン、紙（文房具代として 500 円程度）

・内容 まめバス路線図をベースとして、**バス路線、通学路などがコース設定されたマスだけのシートを制作する。**

【Step 2 地域の宝・課題抽出ワークショップ】

必要な資源 ヒト：子育て世代（子育てサークル）、地元住民・シニア（町内会など）、小中高大学生（学校）、大学生（課外講座）、外国にルーツをもつ人（国際交流協会）など既存のコミュニティの集まりや、UDCBK（公的施設）などでのワークショップを行う。人数が多い場合は 5～10 人のグループに分ける。必要に応じて、専門家（行政職員、大学講師など）のファシリテーターを設ける。

対象範囲 地区：学区毎（または近隣地区）

必要な資源 モノ：模造紙（グループに 2 枚）付箋紙（1 人 10 枚程度）、ペン（1 人 1 本）

必要に応じて、調査資料、インターネットツール

必要な資源 カネ：文房具 500～1000 円、貸館利用の場合はその料金 400～2000 円、チラシ 1000 円

・テーマ

A. 自分にとっては「当たり前」になっていて気づかないような「草津市の良いところ、誇れるところ」【地域の宝】

B. 自分だからこそ知るマチの小さな困りごと、その解決策【地域の課題】

・作業（30 分）

それぞれの意見を付箋紙に書き、模造紙に A.B 分けて貼る。

『文化・歴史』、『建物』、『農業』、『グルメ』、『買い物』、『交通』、『交流』、『防災』など、カテゴリー毎に分けて、完成！各班で発表

・アウトプット

地域の宝、課題を参加者で共有、共感することができる（発掘）

【Step 3 地域の宝・課題の整理・カード化、まめバスすごろく制作】

必要な資源 ヒト Step 2 の続きで行う（同メンバー）

必要な資源 モノ 名刺サイズカード 50 枚、ペン、カラーペン、地図、インターネットツール

必要に応じて PC（名刺作成ソフト）、プリンター

必要な資源 カネ ボードゲーム試作品 1 セットで 2000 円程度

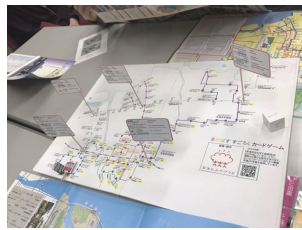
・作業（30 分）

付箋の内容を**バス路線、通学路などがコース設定されたマスだけのシートをベースに整理して、50 項目程度に絞りカード化する。**誰にでもわかるように『やさしいにほんご』を使用する。

→ゲームの中で、各地に点在する地域資源を「回遊する」疑似体験をすることができる

参考) 草津おみやげラボで開発中の「まめバスすごろく」

- ・対象地域：市内全域
 - ・カード：くさつ景観百選、草津のおみやげ など
- ワークショップ&体験会を実施中 (5回)
UDCBKと立命館大学講義



【Step 4 「まめバスすごろく」で遊ぶ】

- ・必要な資源 ヒト Step 3の続きで行う (同メンバー)
 - ・別日 他コミュニティのモニター企画 (必要な資源 貸館利用 400~2000円、チラシ 1000円)
- ゲームの中で、各地に点在する地域資源を「回遊する」疑似体験をすることができる
→子どもも大人も、「遊び感覚」で自分の地域を再発見できるとともに、「実際に行ってみたい」という興味を刺激
VR (バーチャル体験) の利用など特別な体験の特典を付ける

【Step 5 実際に訪れる】

実際にボードゲーム上の食べ物を買ったり歴史スポットに行ったり、市民活動に参加したりした人は、

LINEで簡単に抽選に参加することができ、当選者には草津ブランドが詰まった「草津おみやげセット」がもらえる
既存の健幸アプリ「ピワテク」のポイント付加、まめバス乗車割引サービス、店舗でのサービス、ピワイチなどとコラボ、

・また、現地にもQRコードを設置し、読み取りオンラインゲーム参加、MR (スマホを用いたバーチャル体験) ができるなど特別な体験を付ける。

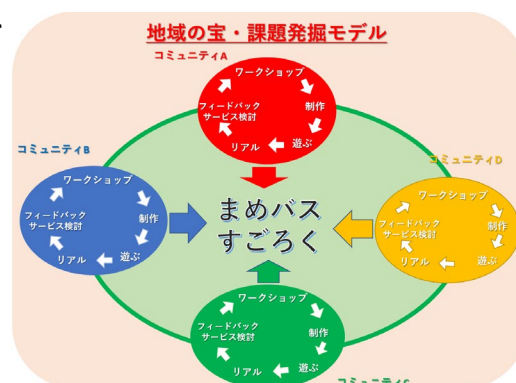
・人々が地域を周遊したくなる、住み(続け)たくなるような社会的サービスを設けられるよう、行政の協力と、協力企業を募る。

【Step 6 未来へつなぐツールへ】

「まめバスすごろく」ゲームのフィードバック、サービス検討、実施をし、さらにワークショップ、を続け、すごろくも実際の運行も、市民の安心安全なツールとなる。また、「まめバスすごろく」は、誰でも気軽に知ることができる紙媒体の普及を目的とし、行政、学校、店舗などで広く入手できるようにする。また安価で手に入れることができる「草津おみやげ」の1つになりうる。カードにQRコードを付けることで紙媒体では掲載できなかった詳細をWebサイトで見ることができるようにする。将来的には学生や協力企業を交えてゲーム自体をオンラインゲーム化とするなど、地域の人だけでなく、日本全国・世界中の人々が草津を体験できるように仕掛けを作り、新しい未来につなぐツールとする。

アイデア実現までの流れ

2020年～
定期開催



【地域の宝・課題発掘モデル】

コミュニティ内での活動が活性化する。
様々なコミュニティに伝播、循環し、
それらを集約することで、
・「まめバスすごろく」
・社会的サービス
を継続的に充実させることができる。